

製品名: ラミニン α -3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13198**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	120 60kDa

抗原情報

遺伝子名	LAMA3 LAMA3; LAMNA; Laminin subunit alpha-3; Epiligrin 170 kDa subunit; E170; Epiligrin subunit alpha;
別名	Kalinin subunit alpha; Laminin-5 subunit alpha; Laminin-6 subunit alpha; Laminin-7 subunit alpha; Nicein subunit alpha
遺伝子 ID	3909.0
SwissProt ID	Q16787
免疫原	抗血清はヒト LAMA3 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 2571-2620

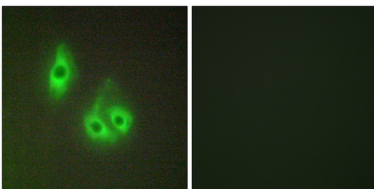
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、分泌分子であるラミニンファミリーに属します。ラミニンは、コイルドコイルドメインを介して集合する α 、 β 、 γ サブユニットからなるヘテロ三量体分子です。ラミニンは基底膜の形成と機能に必須であり、細胞遊走や機械的シグナル伝達の制御にも関与しています。この遺伝子は α サブユニットをコードし、ケラチノサイト増殖因子、上皮増殖因子、インスリン様増殖因子など、複数の上皮間葉系調節因子に応答します。この遺伝子の変異は、ヘルリッツ型接合部表皮水疱症および喉頭爪皮膚症候群の原因として同定されています。選択的スプライシングと選択的プロモーターの使用により、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014年12月]、疾患：LAMA3の欠陥は、接合部 Herlitz 型表皮水疱症 (H-JEB) [MIM:226700]の原因です。接合部表皮水疱症 Herlitz-Pearson 型とも呼ばれます。JEB は、真皮表皮基底膜内で発生する組織分離を特徴とする水疱性皮膚疾患のグループを定義します。H-JEB は重症で、乳児に発生し、致死적입니다。通常、生後6ヶ月以内に死亡します。まれに10代まで生存する子供もいます。H-JEB は、出生時の水疱性病変と、出血性の可能性のある皮膚および粘膜の広範な剥離が特徴です。疾患：LAMA3の欠陥は、喉頭爪皮膚症候群 (LOCS) [MIM:245660]の原因です。LOCS は、パンジャブ系イスラム教徒に限定される常染色体劣性上皮疾患です。この疾患は、皮膚のびらん、爪の異栄養症、および特定の上皮、特に結膜と喉頭における血管性肉芽組織の過剰増殖を特徴とする。ドメイン:ドメインGは球状である。ドメイン: α ヘリカルドメインIおよびIIは、他のラミニン鎖と相互作用してコイルドコイル構造を形成すると考えられている。機能:ラミニンは、高親和性受容体を介して細胞に結合し、他の細胞外マトリックス成分と相互作用することにより、胚発生中に細胞の接着、移動、組織への組織化を媒介すると考えられている。機能:ラミニン5は、(1)接着斑におけるインテグリン $\alpha3/\beta1$ およびヘミデスモソームにおけるインテグリン $\alpha6/\beta4$ を介した細胞接着、(2)pp125-FAKおよびp80のチロシンリン酸化を介したシグナル伝達、(3)ケラチノサイトの分化に関与していると考えられている。誘導:ラミニン5はヒト皮膚の創傷部位でアップレギュレーションされています。類似性:ラミニンIVタイプAドメインを1つ含みます。類似性:ラミニンN末端ドメインを1つ含みます。類似性:ラミニンEGF様ドメインを15個含みます。類似性:ラミニンG様ドメインを5つ含みます。細胞内局在:主要成分です。サブユニット:ラミニンは、3つの異なるポリペプチド鎖(アルファ、ベータ、ガンマ)から構成される複雑な糖タンパク質で、ジスルフィド結合によって1本の長い腕と3本の短い腕が両端に球状になった十字形の分子を形成しています。アルファ-3は、ラミニン-5(エピリグリン/カリニン/ナイスイン)のサブユニットであり、ラミニン-6(K-ラミニン)およびラミニン-7(KS-ラミニン)の成分である可能性もあります。組織特異性:皮膚;呼吸器、尿器、消化器の上皮、および顕著な分泌機能や保護機能を有するその他の特殊組織に発現する。上皮基底膜、そして創傷床へと移動する上皮細胞舌。中枢神経系において、サブユニット $\alpha3$ の特異的かつ局所的な発現が観察される。

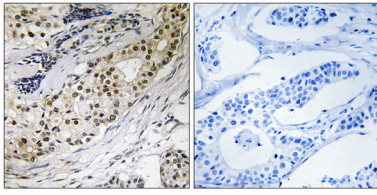
研究分野

接着斑、ECM-受容体相互作用、がんにおける経路、小細胞肺がん、

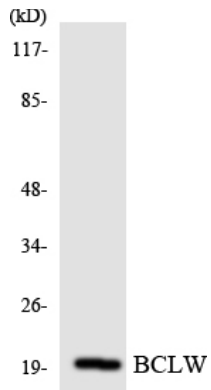
画像データ



LAMA3抗体を用いたHepG2細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



LAMA3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



BCLW 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。